



本日、卒業証書授与式を行いました。卒業生の皆さん、おめでとうございます。そして、生徒を支えていただきました地域の皆様、産業界の皆様、保護者の皆様には感謝申し上げます。本日の式辞の一部を抜粋し、紹介させていただきます。

式辞「自分が源泉」

卒業生の皆さん、御卒業 おめでとうございます。皆さんはコロナウイルス感染症に対応した生活を過ごしてきました。そこには様々な制約もありましたが、学びを止めない対応など、守られることも多くありました。これからは皆さんが周りの人々を守る役割を果たす時です。

今、新しい時代に旅立つ皆さんに、社会人として大切なことの中から一つだけお伝えしたいと思います。それは、「自分が源泉」ということです。源泉とは水や温泉が湧き出る所、物事が生じる所です。つまり、自分から全ての物事が始まっている、という意味です。

新しい生活では、初めての経験や困難なことへの挑戦などうまくいかないことや失敗することもあるでしょう。このとき、重要になるのが受け止め方です。うまくいかないのは人のせい。うまくいかないのは環境のせい。と、外に原因を求めれば、気持ちは楽になるかもしれませんが、解決も進歩もありません。他人も環境も自分が思うようには変わってくれません。自分で変えることができるのは、自分自身の気持ちと行動です。

結果は様々な条件が重なり合って生じるものです。一つでも条件が異なれば別の結果が待っているかもしれません。例えば、建築士をめざす人が、旅行先にヨーロッパを選ぶかアジアを選ぶかでも、旅先での出会いの違いが影響を及ぼし、建築士としての個性を変えてしまうかもしれません。

何事においても、自分には関係のないことと思いつまわずに、自分が何らかの係わりを持っている、あるいは影響を及ぼしている、という立場で結果と向き合い、結果を受けとめてください。すべての結果への影響力が自分にあるということは、たとえ、それが悪い結果であったとしても、自分で創った結果は自分で創り直すことができるのです。

「自分が源泉」という考え方を実践する時、大切なことは言葉の使い方です。無意識のうちに使っている言葉の中に、私たちの意識のあり方が明確に現れています。自分が無意識に使っている言葉を注意深く観察してみると、責任を自分以外に求める言葉を使っていることがあります。そのような言葉を使っていることに気づいたら、すぐに「自分が源泉」の視点に立ち、言葉を置き換えてみてください。きっと、みなさんを主体的な人生の歩みへと導いてくれることでしょう。

自分一人だけが幸福であることはあり得ません。周囲の人々も幸福であってこそ、自分自身も幸福でいられるのです。自分が源泉となり、周囲への関わりを持ち、共に幸福であってください。

創立から2世紀目を迎えた記念すべき年に、卒業する皆さんがものづくりの精神で世の中の幸せを創ること、そして、皆さんの洋々たる前途に幸多からんことを祈念します。

校長 松川 明義

【行事予定】1日(金)：卒業式

4日(月)12:40～13日(水)：生徒校舎内立入禁止期間

5日(火)～6日(水)：高校入試 ※6日の午後2時までは登校禁止



米工 HP